

ヘルパンギーナと百日咳に要注意!



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 14	13	百日咳	↗ 6	0
RSウイルス感染症	↘ 1	2	ヘルパンギーナ	↗ 120	82
咽頭結膜熱	↗ 20	13	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 50	32
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 75	68	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 422	398	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 32	17
水痘	↘ 14	16	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 369	296	無菌性髄膜炎	→ 1	1
伝染性紅斑(りんご病)	↗ 27	21	マイコプラズマ肺炎	↗ 2	1
突発性発しん	↘ 42	57	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

**報告が多い感染症**

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- ヘルパンギーナ

**大きな流行が発生又は継続しつつある地域**

感染性胃腸炎 : 菊池  
手足口病 : 熊本、水俣、菊池、八代、天草、山鹿、宇城

伝染性紅斑 : 人吉  
ヘルパンギーナ : 天草  
百日咳 : 水俣  
流行性耳下腺炎 : 人吉

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所	2	1	4	20	94	3	82	4	18		23	2		31			1		
山鹿保健所					22		9						*	*					
菊池保健所	2		9	27	105		98	6	4	2	17	4							
阿蘇保健所				5	3								*	*			1		
御船保健所					25		1						*	*					
八代保健所	1			2	41	3	61	4	4	1	19	5							
水俣保健所					3	2	40		1	3			*	*					
人吉保健所				1	19	3	3	6	5		15	27	*	*					
有明保健所	7		4	3	70		19		4		9	12		1		1			
宇城保健所	2			3	21	3	30	6			13		*	*					
天草保健所			3	14	19		26	1	6		24								
計	14	1	20	75	422	14	369	27	42	6	120	50	0	32	0	1	2	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	14	0	0	0	1	0	1	0	2	4	0	0	1	0	0	2	1	2	0	0	0
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	20	0	6	5	4	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	0	0	4	3	6	7	8	13	7	10	8	6	0	3						
感染性胃腸炎	422	1	25	49	40	41	39	37	23	26	30	20	60	6	25						
水痘	14	0	0	1	1	3	5	1	2	1	0	0	0	0	0						
手足口病	369	4	36	119	88	54	31	12	8	8	2	3	1	0	3						
伝染性紅斑	27	0	0	0	2	2	4	4	4	4	1	3	3	0	0						
突発性発しん	42	0	19	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	6	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0						
ヘルパンギーナ	120	0	14	52	18	19	5	7	2	1	1	0	1	0	0						
流行性耳下腺炎	50	0	0	1	2	15	14	11	2	2	1	0	2	0	0						
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	32	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0	3	1	8	8	3	2	1	1	1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
無菌性髄膜炎	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0				
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

ヘルパンギーナに注意しましょう

ヘルパンギーナは「夏かぜ」の代表的な病気であり、ウイルスが原因でおこります。県内における今週の報告数は先週と比べて38件増加し、天草地域が警報レベルになりました。ヘルパンギーナは主に乳幼児がかかり、突然高熱がでて、口の中に水疱や発赤が出現し痛みを伴います。口の中の痛みなどから、食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。食事が取れない、頭痛や嘔吐、発熱が続く場合は早めに医療機関を受診するようにしましょう。

百日咳~長引く咳には要注意!~

4月以降、0~2件で推移していた百日咳が今週6件の報告がありました。水俣地域が警報レベルに達しました。百日咳とは、特有の咳発作を特徴とする、百日咳菌という細菌に感染しておこる急性の気道感染症です。長引く咳を認める年長児や成人は、早めに医療機関を受診して適切な診断、治療を受けるように心がけましょう。

ヘルパンギーナの予防のポイント

- ・予防接種はありません。
- ・外から帰った後、食事の前、トイレの後などに手洗いをしっかり行うことが大切です。
- ・幼稚園、保育園や学校などの集団生活ではタオルを共用することは避けましょう。

百日咳の予防のポイント

1. 定期予防接種：百日咳のワクチンは四種混合ワクチンとして、生後3ヵ月から接種できます。標準的な接種スケジュールは以下のとおりです。
  - ・1期初回
    - ：生後3月から生後12月に、20日以上の間隔を置いて3回接種
  - ・1期追加
    - ：1期初回接種終了後12月から18月の間隔を置いて1回接種
2. 長引く咳を認める年長児や成人は、新生児や乳幼児に近づかないように配慮し、早めに医療機関を受診しましょう。
3. 咳エチケット：咳やくしゃみをするときは、ティッシュペーパーなどで口と鼻をおおい、人にかからないようにしましょう。

